

線形代数 5.3.02 「次元の定義」

K. Yoshitomi

大阪府立大学

2017

この動画は培風館「理工系新課程 線形代数 基礎から応用まで」[改訂版]に準拠しています。
スライドは <http://www.las.osakafu-u.ac.jp/~yositomi/slide/LA2-2017/> にあります。

基底のおさらいと補足

ベクトル空間 V , $B = [v_1, v_2, \dots, v_m] \subset V$ が V の基底

$\Leftrightarrow V = \langle v_1, v_2, \dots, v_m \rangle$ かつ v_1, v_2, \dots, v_m 1 次独立.

注 系 B に対して上を「 $V = \langle B \rangle$, B は 1 次独立」と略記する.

注 形式的行ベクトル $(v_1 \ v_2 \ \dots \ v_m)$ も B で表す: $v = Bx$, $x \in \mathbb{R}^m$ と書ける.

注 基底かどうかは順序に無関係. ただし, 順序の異なる '系' は基底として異なる.

注 B が V の基底 $\Leftrightarrow V$ の任意のベクトル v に対し,

$v = Bx$, $x \in \mathbb{R}^m$ となる x がただ一つ存在.

簡単な例

例 $V = \mathbb{R}^3$ の基底の例: $\left[\begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix} \right]$ (標準基底)

例 $V = P_2(\mathbb{R})$ の基底の例: $[1, x, x^2]$ がとれる

例 $V = \left\{ \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} \mid x + y + z = 0 \right\}$ の基底の例: $\left[\begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} -1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix} \right]$

例 $W = \{f(x) \in P_2(\mathbb{R}) \mid f(0) = 0\} \subset P_2(\mathbb{R})$ の基底の例: $[x, x^2]$

n 個で生成される $n + 1$ 個のベクトル ($n = 1, 2$)

• $a_1, a_2 \in \langle u \rangle \Rightarrow a_1, a_2$ は 1 次従属.

• $a_1, a_2, a_3 \in \langle u, v \rangle \Rightarrow a_1, a_2, a_3$ は 1 次従属.

n 個で生成される $n + 1$ 個のベクトル

補題

n 個のベクトルの 1 次結合で表される $n + 1$ 個のベクトルは 1 次従属. i.e. $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_{n+1} \in \langle \mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \dots, \mathbf{v}_n \rangle$
 $\Rightarrow \mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_{n+1}$ は 1 次従属

Q. 3 個のベクトルの 1 次結合で書ける 4 個のベクトルは 1 次従属であることを証明せよ.

基底に含まれるベクトルの数

命題

ベクトル空間 V の基底となるベクトルの数は一定

i.e. v_1, \dots, v_m と $w_1, \dots, w_n : V$ の基底 $\Rightarrow m = n$

(証明) まず, $v_1, \dots, v_m \in \langle w_1, \dots, w_n \rangle$ である.

$m > n$ とすると, 「補題」より, v_1, \dots, v_m は 1 次従属となり, 基底 v_1, \dots, v_m は 1 次独立であることに反する. $\therefore m \leq n$

同様に $m < n \Rightarrow$ 矛盾 $\therefore n \leq m$

$$\therefore m = n$$

次元の定義

定義

基底となるベクトルの組の個数は一定で、その個数を次元という。ベクトル空間の次元を $\dim V$ で表す。

次回：「生成される部分空間の基底」